

# 単元名 「喫煙・飲酒・薬物乱用と健康」(第2学年 保健分野(1) 健康な生活と疾病の予防(1))

## ■本事例のポイント

- 生徒が自ら学習課題を選択できるよう、外部講師や養護教諭等と連携し、様々な視点から学習を進めた。
- 生徒一人ひとりの考えを全員が共有しながら課題解決に取り組むことで、深い学びの実現を目指した。

## ■単元の目標

喫煙、飲酒、薬物乱用について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを伝え合うことができるようとする。

## ■単元の指導計画（5時間）

### 第1時間目

#### 「喫煙と健康について」

- ・喫煙が健康に及ぼす影響について理解する。

### 第2時間目

#### 「飲酒と健康について」

- ・飲酒が健康に及ぼす影響について理解する。

### 第3時間目

#### 「喫煙・飲酒のきっかけ」

- ・喫煙や飲酒に対する対処方法を考える。

### 第4時間目

#### 「薬物乱用と健康について」

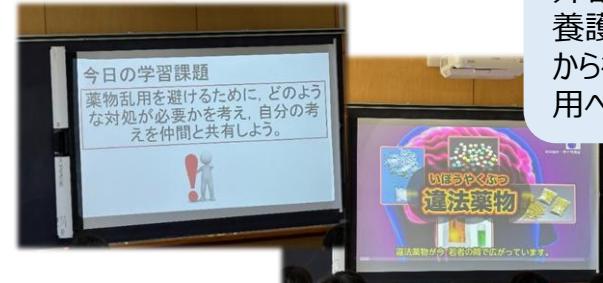
- ・薬物乱用が健康に及ぼす影響について理解する。

### 第5時間目

#### 「薬物乱用のきっかけについて」

- ・資料や事例を選び、既習内容を活用して薬物乱用への対処方法を考える。

## ■本時の概要

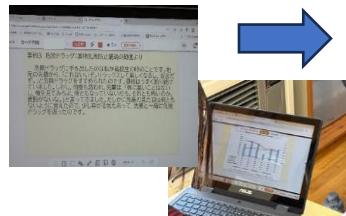


外部講師（警察）による講話、養護教諭の授業、図書室の資料等から得た知識や情報を基に、薬物乱用への対処方法について考える。

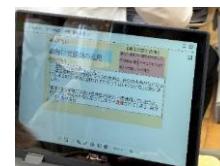


**【学習課題】** 薬物乱用を避けるために、どのような対処が必要かを考え、自分の考えを仲間と共有しよう。

(1)学習支援ソフトで共有された資料やデータから各自が学習課題を選択



(2)筋道を立てて説明するための個人による考え方の整理



(3)グループ内の考え方の共有と意見の統合・相違点の話し合い・考え方の集約



(4)振り返りの全体共有と記録の保存



## ■学習調整をしている子供の姿



## ■指導と評価の工夫

### ①学習課題を「自分事」として捉えるための機会の設定

- \* 薬物乱用を「自分事」として捉えるための、警察の協力による講話の実施
- \* 若者のオーバードーズ問題を扱った、養護教諭による授業の実施

### ②学習内容の振り返りと課題へのつながり（動画資料・統計資料の活用）

- \* 違法薬物の種類と危険性に関する動画の視聴とこれまでの学習内容の整理
- \* 覚せい剤・麻薬・大麻等の検挙数を確認し、学習課題を「自分事」として捉え直し

### ③情報の選択と考えの整理

- \* 使用者の事例、講話の内容、養護教諭の授業で扱ったデータ、図書室の資料、ホームページのリンク等、複数の情報源の提示と選択
- \* 覚せい剤・大麻・麻薬等、薬物乱用の種類の提示と、生徒が関心をもった薬物の選択及び対処方法の整理
- \* 生徒の考えを全体で共有することによる学びのヒントの提供

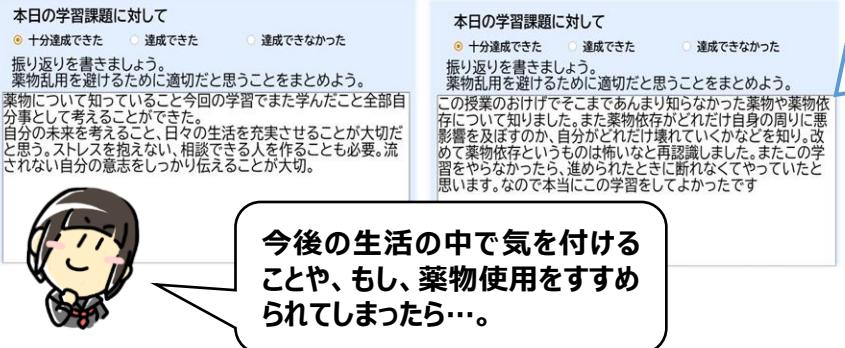


## ■学習調整をしている子供の姿



班のまとめ 班名→4班

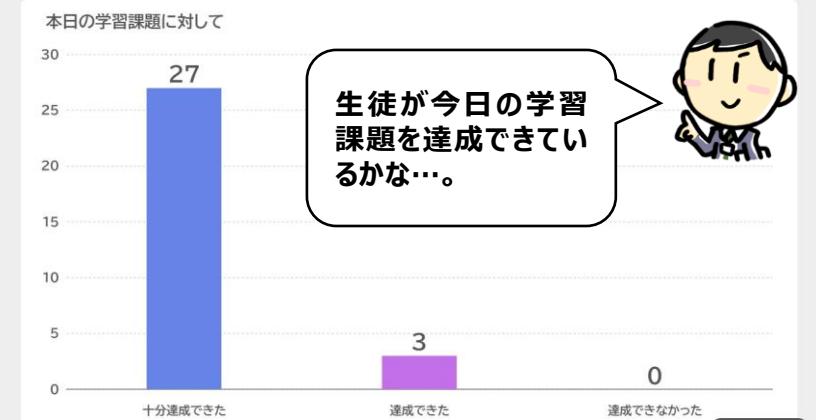
意見のまとめ  
～対処法のまとめ～  
・友人や家族に薬物を勧められても、しっかりと断ること  
・薬物を勧めてくるような人との、関係を断つこと  
・薬物の危険性を知ること  
・日常生活も充実させる(ストレスを発散する、相談できる人を作る)  
理由:薬物の危険さを知ることで、勧められても断ることができるから。日常生活を充実させることで、まずは薬物に手を出さなくなるから。



本日の学習課題に対して  
○十分達成できた ○達成できた ○達成できなかつた  
振り返りを書きましょう。  
薬物乱用を避けるために適切だと思うことをまとめよう。  
薬物について知っていること今回の学習でまた学んだこと全部自分事として考えることができた。  
自分の未来を考えること、日々の生活を充実させることが大切だと思った。ストレスを抱えない、相談できる人を作ることも必要。流れられない自分の意志をしっかり伝えることが大切。

今後の生活の中で気を付けることや、もし、薬物使用をすすめられてしまったら…。

### 子供が自らの学習を振り返る場面の設定



## ■指導と評価の工夫

### ④考え方の統合と広がり

- \* グループ内での意見交換と、他者との考え方の相違点の把握及び意見の統合
- \* 全体共有による多様な視点の理解と意見整理を通じた思考の広がり

### ⑤学習課題に対する振り返り I

- \* 多様な意見や考え方に対する触れるによる考え方の再構築
- \* 提出状況の確認と必要に応じた個別支援



### ⑥学習課題に対する振り返り II

- \* 生徒自身による達成度の自己評価と結果のグラフ化
- \* グラフによる学級全体の学習状況の把握

### ■成果 (○) と課題 (▲)

- 外部講師や養護教諭等、さまざまな立場の方から学ぶ機会を得て、生徒の見方や考え方に対する広がりが見られた。
  - 学習課題を「自分事」として捉えることができ、学び方の選択が円滑に進められた。
- ▲情報の精査や、取り上げる情報量の調整が必要である。